

インターバンクの声（2017年8月14日）

週末のニューヨーク市場では、前日の7月米生産者物価指数の予想外の低下に続き7月米消費者物価指数も市場予想を下回り、米FRBの年内の追加利上げに対する懐疑的な見方がさらに強まった。前日は対円で109円台前半まで値を下げたドルは、米消費者物価指数の発表直後には108円70銭台まで値下がり、4月に付けた今年これまでのドル最安値108円14銭に近づいた。

連日の米主要経済指標の悪化に、一気に最安値更新を目指してもおかしくはなかったが、さすがに週末で利益を確定したい人たちが多かったせいか、その後は下げ渋る展開となった。

米長期金利が上昇し始めたことも気になったようだが、ロシアのラブロフ外相が米国と北朝鮮の緊張緩和に向けて中国と共同計画があると述べたとの報道も大きく影響したようだ。

ただ、今年のFOMCでの投票権を持つカプラン・ダラス連銀総裁とカシュカリ・ミネアポリス連銀総裁がともに早期の追加利上げに慎重な発言をしており、米国と北朝鮮の緊張が強まるようだと再びドルが売られそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。